



## 2024年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年11月8日

上場会社名 K O Z Oホールディングス株式会社 上場取引所 東  
コード番号 9973 URL <https://kozohd.co.jp/>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 森下 将典  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 毛利 謙久 TEL 03-4586-1122  
配当支払開始予定日 —  
決算補足説明資料作成の有無: 無  
決算説明会開催の有無: 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2024年12月期第3四半期の連結業績（2024年1月1日～2024年9月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年12月期第3四半期	13,072	52.8	△327	—	△311	—	△351	—
2023年12月期第3四半期	8,555	7.7	△142	—	△134	—	△117	—

(注) 包括利益 2024年12月期第3四半期 △396百万円 (—%) 2023年12月期第3四半期 △173百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年12月期第3四半期	△1.58	—
2023年12月期第3四半期	△0.58	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年12月期第3四半期	5,351	492	8.7	1.95
2023年12月期	5,631	292	4.7	1.30

(参考) 自己資本 2024年12月期第3四半期 468百万円 2023年12月期 267百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2024年12月期	—	0.00	—	—	—
2024年12月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

### 3. 2024年12月期の連結業績予想（2024年1月1日～2024年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	17,500	34.0	△340	—	△330	—	△410	—	△1.80

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無: 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更： 有

新規 2社

(社名) ASRAPPORT DINING USA, INC.

(社名) SUSHI BOY, INC.

除外 1社

(社名) -

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2024年12月期3Q	239,821,340株	2023年12月期	205,821,340株
2024年12月期3Q	6,866株	2023年12月期	6,866株
2024年12月期3Q	223,336,814株	2023年12月期3Q	202,481,391株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー： 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、現時点における経営環境において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後の様々な要因によって予想値と異なる結果となる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については4ページ「1. 経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当四半期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当四半期の財政状態の概況 .....	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	9
(セグメント情報等の注記) .....	10
(重要な後発事象) .....	11

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間(2024年1月1日~2024年9月30日)におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善、インバウンド需要の復調など、景気は緩やかな回復基調で推移する中で、不安定な国際情勢や円安の長期化等の影響による物価の上昇が生じており、先行き不透明な景気動向が続いております。当社が属する中食・外食産業におきましては、昨年の新型コロナ収束以降、来店客数に回復の動きが見られるものの、物価上昇を背景とした消費マインドの減退や労働者不足が解消していない問題も含め、依然として厳しい状況が続いております。

このような環境下において、当社グループは「小売事業」「飲食事業」「流通事業」の3軸の事業の収益改善、海外事業の拡大を軸とした中期経営計画を推進し、当社グループの基本方針である「多様な食を、多様な形で、多様な顧客へ」のもと、食と顧客を繋ぐ「トータル・フード・プロバイダー」として、各事業セグメントの取組みを進める一方で、各事業セグメント間のクロスオーバーによる新たな事業の創出を進めております。

現時点における当社グループの取組みは下記となります。

#### [小売事業セグメント]

当セグメントの中核事業会社である株式会社小僧寿し(以下「小僧寿し」といいます。)におきましては、持ち帰り寿し店「小僧寿し」の小売店舗化の推進を図っており、食品スーパーマーケットを運営する株式会社だいまの商品及び商品調達力の活用を進める一方で、和惣菜の製造事業を行うモリヨシ株式会社(以下「モリヨシ」といいます。)にて製造される和惣菜の店舗販売などを実施し、小売店としての事業拡充を進めております。また、小僧寿しにおいては、「地方圏におけるドミナント出店」を推進しており、2024年10月4日付「当社連結子会社による事業譲受けに関するお知らせ」にてお知らせのとおり、2024年11月1日より、「兵庫県」「徳島県」「香川県」において運営する18店舗の小僧寿しFC店の事業を譲り受けることを決定いたしました。これにより、西日本エリアの直営店との仕入・流通網を形成し、よりコスト効率の高い事業体制を構築する事で、更なる収益改善を果たしてまいります。

#### [飲食事業]

当第3四半期連結累計期間におきましては、飲食事業において展開するメキシカン・ファストフードの「TacoBell」や、本格四川中華料理を提供する「陳麻家」など、合計6店舗の新規出店を実施いたしました。飲食事業におきましては、今後も新規出店開発を進める事で、更なる事業規模の拡大を図ってまいります。

#### [流通事業]

前連結会計年度に連結子会社とした東洋商事株式会社(以下「東洋商事」といいます。)及びモリヨシ、フード・デリバリーサービスを展開する株式会社デリズ(以下「デリズ」といいます。)により、当該事業セグメントを構成しております。当期においては、東洋商事により、新たに一般貨物自動車運送事業の許可を取得し、配送車の増車も並行して実施したことで、更なる流通機能の強化を図っております。

#### [海外事業の拡充]

飲食事業セグメントの中核会社であるアスラポート株式会社(以下「アスラポート」といいます。)において、2024年5月に北米圏にイートイン型の飲食店や持ち帰り寿し店を8店舗展開するSUSHIBOY, INC.を子会社とする、ASRAPPORT DINING USA, INC.を連結子会社といたしました。また、2024年6月に、英国の日本食品会社であるJapan Centre Group Limited(以下「Japan Centre」といいます。)及び当社グループの英国における事業展開を企図して設立された英国法人Kozosushi UK Limited(以下「Kozosushi UK」といいます。)との間で3社間の資本業務提携を締結し、両社を持分法適用関連会社と致しました。Japan Centreにおいては、1976年の設立以来、英国における「小売事業」「飲食事業」を介した「日本の食と文化」の発信源として、スーパーマーケット「JAPAN CENTRE」、日本食の飲食・物販・デモンストレーション・プロモーションが一体となった日本食ホール「Ichiba」、ロンドンのヘドン・ストリートに出店するラーメンBer「ラーメン横丁」など、多角的に事業を展開しております。当社グループは、Japan Centreとの協業を主体として、当社グループの小売・飲食事業のブランド展開や、日本食材の輸入、海外において販売する商品の企画・販売・製造の協業などによる、新たな事業展開を企図するなど、欧米における事業領域の拡大へ向けて推進しております。

#### [持株会社化による組織再編]

上記までに記載する事業の取組みを進める一方で、「小売事業」「飲食事業」「流通事業」の3事業セグメント及び海外事業、18の事業ブランドを展開する、当社グループの事業ポートフォリオの最適な運営体制を構築するため、当第3四半期会計期間である2024年7月1日に、当社は「KOZOホールディングス株式会社」(以下「KOZOHD」といいます。)へと商号変更を行い、持株会社へと移行いたしました。

持株会社であるK0Z0HDにおいては、事業領域が拡大する当社グループの中核機能として、

- ① K0Z0HDによる本部機能の統合を図り、グループ各社の事業生産性と本部コスト最適化を図る。
  - ② 持続可能な社会の実現にむけて、SDGsへの積極的な取り組みを進め、社会・経済発展のバランスを保ち、次代へ向けた成長を続ける。
  - ③ 事業価値並びに株式価値を高めると共に、株主還元策を重要な指針とする。
- といった上記の方針を掲げ、この取り組みを進めております。

上記の事業推進による取り組み、及び、2023年5月付で連結子会社とした東洋商事、モリヨシの収益連結の影響、並びに、2024年6月付で連結子会社とした海外事業のSUSHI BOY, INC.の収益連結の影響により、当第3四半期連結累計期間における売上高は、130億72百万円（前期比52.8%増加）となりました。

営業利益及び経常利益に関しましては、各事業セグメント別の概況を含めて、ご説明を致します。

#### ① 小売事業セグメント

小売事業は、小僧寿し及びだいまるによって構成されており、「小僧寿し」「茶月」の出店店舗数は152店舗（直営75店舗、FC店舗77店舗）（前年同期は直営73店舗、FC96店舗）、だいまるにおいては、スーパーマーケット「だいまるストア」を1店舗（同前年同期）展開しており、小売事業の店舗数は153店舗（前年同期比16店舗減少）となりました。

小売事業における中核事業会社である小僧寿しは、前年同期と比較して売上高が増加しておりますが、人材不足に伴う採用コストの増加、最低賃金の上昇による人件費の増加による影響が生じております。だいまるにおきましては、近隣スーパーマーケットとの競争激化に伴う来店客数の減少により、前年同期と比較して売上高が減少しております。これらの影響が生じ、小売事業のセグメント損失は1億17百万円（前年同期は1億5百万円のセグメント損失）となりました。

#### ② 飲食事業セグメント

飲食事業は、連結子会社であるアスラポート株式会社（以下「アスラポート」といいます。）、株式会社TBJ（以下「TBJ」といいます。）、株式会社スパイシークリエイトにおいて、外食・居酒屋業態のチェーン展開を行っております。（直営25店舗、FC店舗239店舗）（前年同期は直営29店舗、FC店舗278店舗）また、アメリカにおいてイートイン型の飲食店・持ち帰り寿し店を展開するSUSHI BOY, INC.を子会社とする、ASRAPPORT DINING USA, INC.を連結子会社と致しました。（海外10店舗）

アスラポートにおきましては、新型コロナウイルス感染症の第5類移行後、インバウンド需要や消費活動の活発化を背景とした、来店客数の増加により、既存店の売上高は堅調に推移を致しましたが、当期計画をしておりました新店の出店開発が遅れていることから、売上高及び営業利益共に、当初計画には到達しておりません。TBJにおきましては、当期計画をしておりました「TacoBell」の新規出店3店舗を開発致しましたが、長期に渡る円安の影響に伴い、輸入食材の調達コストが増加しております。

これらの影響が生じ、飲食事業のセグメント損失は97百万円（前年同期は34百万円のセグメント利益）となりました。

#### ③ 流通事業セグメント

流通事業は、業務用食材の卸売事業を主業とする東洋商事、和惣菜の製造販売を主業とするモリヨシ、フード・デリバリー店「DELIS」を運営するデリズによって構成されております。（総拠点数91拠点）（前年同期は79拠点）

東洋商事におきましては、新型コロナウイルス感染症の第5類移行後、消費活動の活発化を背景として、販売先である小売店・飲食店の来店客数の回復に伴い、売上高は堅調に推移しております。一方で、モリヨシ及びデリズにおきましては、原材料価格の高騰による影響が生じ、また、販売価格に転嫁する過程において時間を要しております。

これらの影響が生じ、流通事業のセグメント損失は、1億12百万円（前年同期は71百万円のセグメント損失）となりました。

#### ④ 海外事業

当社グループの海外事業は、飲食事業セグメントの中核会社でありアスラポートを主体として、欧米に合計15店舗（内、5店舗がハワイ州における持ち帰り寿し店）の飲食店を展開しております。また、2024年6月には、英国の日本食品会社であるJapan Centre Group Limited及び当社グループの英国における事業展開を企図して設立された英国法人Kozosushi UK Limitedとの間で資本業務提携を締結し、持分法適用関連会社とするなど、事業領域の拡大へ向けた取り組みを進めております。

海外事業におきましては、欧州において展開する飲食店2店舗において、オープニングコストの発生や、未だ収

益改善の途上に有ることから損失を計上しております。

⑤ 本部（KOZOホールディングス株式会社）

2024年7月1日付にて、当社はKOZOホールディングス株式会社へと商号を変更し、持株会社体制へと移行を致しました。当該、持株会社体制への移行に伴う手続き費用の発生、及び、持株会社体制への移行記念優待の実施等によるコストが当第3四半期連結会計期間において発生しております。

上記に記載する結果、当第3四半期連結累計期間の営業損失は3億27百万円（前年同期は1億42百万円の営業損失）、経常損失は3億11百万円（前年同期は1億34百万円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純損失は3億51百万円（前年同期は1億17百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は53億51百万円となり、前連結会計年度末に比べ2億80百万円の減少となりました。

主な要因としては、有形固定資産が3億46百万円、のれんが2億64百万円増加したことに対して、現金及び預金が4億37百万円減少したこと等によるものです。

負債合計は48億58百万円となり、前連結会計年度末に比べ4億80百万円の減少となりました。

主な要因としては、買掛金が5億44百万円減少したことによるものです。

純資産合計は、新株予約権の行使により5億96百万円増加したものの、親会社株主による四半期純損失3億51百万円を計上したことにより、4億92百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年12月期の業績予想は、2024年11月8日開示の「2024年12月期 通期連結業績予想の修正」をご参照下さい。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	997,444	559,921
受取手形及び売掛金	1,296,282	1,203,511
商品	629,391	549,424
短期貸付金	211,308	206,515
その他	406,446	322,923
貸倒引当金	△139,833	△143,727
流動資産合計	3,401,039	2,698,569
固定資産		
有形固定資産	678,317	1,025,087
無形固定資産		
ソフトウェア	2,795	4,244
のれん	355,404	619,947
その他	1,243	5,940
無形固定資産合計	359,443	630,131
投資その他の資産		
投資有価証券	25,783	16,061
敷金及び保証金	807,523	819,637
破産債権等に準ずる債権	252,817	254,970
繰延税金資産	1,607	1,607
その他	515,437	310,646
貸倒引当金	△411,140	△406,260
投資その他の資産合計	1,192,028	996,664
固定資産合計	2,229,790	2,651,883
繰延資産	313	641
資産合計	5,631,143	5,351,095

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	2,101,661	1,557,575
短期借入金	5,463	100
1年内返済予定の長期借入金	222,915	196,004
未払金	545,424	349,979
契約負債	73,247	48,231
未払法人税等	36,602	18,311
未払消費税等	110,034	121,737
賞与引当金	10,437	22,278
その他	467,165	571,423
流動負債合計	3,572,952	2,885,640
固定負債		
長期借入金	970,348	869,675
リース債務	78,092	73,858
資産除去債務	378,609	405,385
その他	339,046	623,909
固定負債合計	1,766,096	1,972,829
負債合計	5,339,048	4,858,469
純資産の部		
株主資本		
資本金	114,844	413,218
資本剰余金	563,148	861,522
利益剰余金	△350,143	△702,064
自己株式	△7,435	△7,435
株主資本合計	320,414	565,240
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△54,391	△97,393
その他有価証券評価差額金	1,261	316
その他の包括利益累計額合計	△53,130	△97,077
新株予約権	699	699
非支配株主持分	24,112	23,762
純資産合計	292,094	492,625
負債純資産合計	5,631,143	5,351,095



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)
売上高	8,555,487	13,072,320
売上原価	4,944,437	8,203,318
売上総利益	3,611,050	4,869,001
販売費及び一般管理費	3,753,929	5,196,096
営業損失(△)	△142,879	△327,094
営業外収益		
受取利息	3,675	9,142
為替差益	13,974	25,913
その他	11,333	20,842
営業外収益合計	28,983	55,899
営業外費用		
支払利息	9,847	24,576
その他	10,673	16,042
営業外費用合計	20,520	40,618
経常損失(△)	△134,415	△311,814
特別利益		
負ののれん発生益	84,270	—
その他	—	1,248
特別利益合計	84,270	1,248
特別損失		
店舗閉鎖損失	14,335	7,081
特別損失合計	14,335	7,081
税金等調整前四半期純損失(△)	△64,480	△317,646
法人税、住民税及び事業税	54,769	33,859
法人税等調整額	△1,332	765
法人税等合計	53,436	34,625
四半期純損失(△)	△117,916	△352,271
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△709	△350
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△117,207	△351,921

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)
四半期純損失(△)	△117,916	△352,271
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1	△944
為替換算調整勘定	△55,259	△43,001
その他の包括利益合計	△55,260	△43,945
四半期包括利益	△173,177	△396,217
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△172,468	△395,866
非支配株主に係る四半期包括利益	△709	△350

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

第14回新株予約権（行使価額修正条項付）の行使により、発行済株式数が34,000,000株、資本金が298,374千円、資本準備金が298,374千円それぞれ増加しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)
減価償却費	32,791千円	56,537千円
のれんの償却費	33,296千円	40,892千円

(セグメント情報等の注記)

[セグメント情報]

I 前第3四半期連結累計期間(自2023年1月1日至2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 1
	小売事業	流通事業	飲食事業	計		
売上高						
外部顧客への 売上高	2,935,338	2,601,818	3,018,330	8,555,487	—	8,555,487
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	126,328	420,812	99,300	646,442	△646,442	—
計	3,061,667	3,022,631	3,117,630	9,201,930	△646,442	8,555,487
セグメント利益 又は損失(△)	△105,552	△71,694	34,347	△142,899	20	△142,879

(注) 1. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの資産に関する情報

セグメント資産及び負債については、経営資源の配分の決定及び業績を評価するための検討対象とはなっていないため、記載しておりません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(重要な負ののれんの発生益)

「小売事業」において、東洋商事及びモリヨシの全株式を取得し、子会社化に伴い、負ののれんが発生しております。これに伴い、当第3四半期連結会計期間において、負ののれん発生益84,270千円を特別利益として計上しております

## II 当第3四半期連結累計期間(自2024年1月1日至2024年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 1
	小売事業	流通事業	飲食事業	計		
売上高						
外部顧客への 売上高	2,919,656	6,373,309	3,779,354	13,072,320	—	13,072,320
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	338,559	1,252,977	—	1,591,537	△1,591,537	—
計	3,258,215	7,626,287	3,779,354	14,663,857	△1,591,537	13,072,320
セグメント利益 又は損失(△)	△117,450	△112,249	△97,406	△327,106	12	△327,094

(注) 1. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントの変更等に関する事項

該当事項はありません。

## 3. 報告セグメントの資産に関する情報

セグメント資産及び負債については、経営資源の配分の決定及び業績を評価するための検討対象とはなっていないため、記載しておりません。

## 4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「飲食事業」セグメントにおいて、ASRAPORT DINING USA, INC 及びSUSHI BOY, INCを子会社化したことにより、当第3四半期連結累計において、303,820千円のものれんが発生しております。

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。